

国語 第4学年 題名の持つ意味について考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：題名に関わる言葉が現れる場面を比べ、人物の気持ちや情景の変化から題名の意味を考える。戦争について知っていることだけで説明せず、物語の前半と後半に書かれた暮らしや行動に戻る。C(1)エの学習として、題名を考えるメモ。前後の場面の言葉、人物の気持ち、情景、そこから考えた題名の意味を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、人物の気持ちや情景を場面の移り変わりと結び付けて想像し、題名の意味を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：題名を考えるメモを残す。前後の場面の言葉、人物の気持ち、情景、そこから考えた題名の意味を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)エに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：戦争はよくないという一般論だけになる。題名が示す物を答えるだけで意味を考えない。これについて、前半と後半の暮らし、行動、情景を対応させる。時代の語句は必要な範囲で説明し、その知識で本文にない気持ちを断定しない。題名への答えは根拠を付けて複数残す。〔知識及び技能〕(1)アとC(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：題名を考えるメモは紙に記録できる。前後の場面の言葉、人物の気持ち、情景、そこから考えた題名の意味を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：戦争の歴史を詳しく説明するのか。

返し：C(1)エのために場面が想像できる背景は補うが、歴史知識の量を評価しない。語句の説明の後は、人物の行動と情景が本文にどう書かれているかに戻る。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「題名の言葉は、前の場面と後の場面でどんな意味や感じをもっていますか。人物の様子や情景と結び付けて説明しましょう」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

